



科研製薬株式会社



生化学工業株式会社

2007年10月19日

報道関係各位

40歳以上の男女1,175名を対象とした「ひざの健康」に関する調査

中高年の63.0%が「ひざ痛持ち」、痛みが出はじめたのは平均56.4歳

「病院に行くほどでもない」、「我慢できる痛みだから」
76.9%が病院には行かず、自己流で対処

シニアライフでやりたいことは「旅行」…8割以上(81.9%)

より充実した生活を送るためにも、早期診断・治療が重要です！

科研製薬株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:乾 四朗)と生化学工業株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:水谷 建)では、9月28日、29日の両日にわたって東京・新宿で開催された「おとなの文化祭 ゴールデンエイジ・フェスタ 2007」に参加した40歳以上の男女1,175名(平均年齢62.9歳、男性:326名、女性:849名)を対象に「ひざの健康に関するアンケート調査」を実施しました。

本調査結果からは、中高年の6割以上が何らかのひざの痛みを抱え、「階段の上り下り」や「和室での生活」をつらいと感じているものの、痛みを抱える人の76.9%が、「病院に行くほどでもないから」「我慢できる痛みだから」という理由で病院での治療を受けていないことが分かりました。また、主に中高年期に発症し、約1,000万人の患者がいると推定されている「変形性膝関節症」については、病名および病気の内容まで知っている人は27.2%にとどまっているという結果も出ており、「ひざの痛み」を抱えながらも、その痛みがひざの病気の一症状かもしれないという認識が希薄な中高年の実状が垣間見えます。

また、これからのシニアライフでやりたいこと、計画していることとしては、「旅行」を挙げる人が81.9%と最も多く、現代の中高年の活動的な一面がうかがえる結果となりました。ただし、「旅行」を楽しむのも、歩行の要といわれる「ひざ」が健康であってこそ。50歳を過ぎてからの「ひざの痛み」は変形性膝関節症の注意信号と受け止め、早期に発見し適切な治療を受けて、痛みのない活動的なシニアライフを実現していただきたいものです。

【調査結果の要約】

中高年の 63.0%…ひざが痛い。ひざ痛発症平均年齢は 56.4 歳

中高年の 63.0%が「いつも痛い」、「しばしば痛む」、「たまに痛くなる」と、程度の差こそあれひざの痛みを抱えています。調査平均年齢は、男性 64.4 歳、女性 62.3 歳と男性が 2 歳年上ですが、ひざの痛みを抱えている割合は、男性 56.4%、女性 65.5%と女性が多い。

ひざの痛みを感じ始めたのは平均 56.4 歳の時で、男女別に見ると、男性 57.6 歳、女性 56.0 歳と、女性の方が 1.6 歳早く発症しています。

つらいのは、「階段の上り下り」や「和室での生活」

「階段の上り下り」(51.9%)や、畳に座る機会の多い「和室の生活」(28.4%)、「遠くへの外出」(17.8%)など、ひざへの負担の多い行動がやはりつらいようです。

76.9%が病院で治療を受けず、ひざの痛みの対処法は、「何もしない」が 22.7%と多く、

「サポーターをつける」、「市販薬を使う」など独自で対応

ひざが痛いからといって「病院に行く」人はわずか 23.1%で、76.9%の人が病院で治療を受けていませんでした。痛みの頻度別に見てみると、「いつも痛い」人であっても 51.4%が、「しばしば痛む」人は 35.5%が、「たまに痛くなる」人では 15.9%しか病院を受診していませんでした。

ひざの痛みの対処法は「何もしない」と答えた人は 22.7%、その他、「サポーターをつける」(22.7%)、「市販薬を使う」(16.8%)、「安静にしている」(15.9%)、「温める」(15.5%)、「鍼灸・マッサージに行く」(10.5%)など、自分なりの対処ですませていることが明らかとなりました。

病院で治療を受けない理由は、「病院に行くほどではないから」が最多

病院で治療を受けない理由としては、39.4%が「病院に行くほどではない」と最も多く、「特に理由はない」(27.8%)、次いで「我慢できる痛みだから」(24.8%)の順でした。「年のせいで病気ではないと思うから」と答えた人も 10.7%おり、「ひざの病気」としての認識の低さをうかがわせる結果となりました。

中高年期に発症することが多い変形性膝関節症の病名の認知度は 67.0%

「変形性膝関節症」については、「病名は知っている」(39.7%)が最も多く、次に「知らない」(29.8%)の順でした。中高年期からのひざの疾患であるにもかかわらず、「病名も、病気の内容についても知っている」人は 27.2%にとどまりました。

ヒアルロン酸について知っている人のうち、ひざの治療薬としてのヒアルロン酸の認知度は 32.6%

ヒアルロン酸の認知度は 76.0%でした。化粧品の成分として使用されているためか、男性(56.7%)に比べ、女性(83.4%)の認知度が高い結果となりました。ヒアルロン酸について「名前も、どのようなものかについても知っている」と答えた 23.0%のうち、知っている内容としては、「加齢とともに減少する」、「関節では潤滑の役割を果たす」(いずれも 68.5%)、次いで「お肌の保湿成分としても有効」(64.1%)の順で、「ひざの痛みをとる注射薬」と答えた人は、32.6%でした。

ひざの健康管理において特に何もしていない中高年は、わずか1割(10.4%)

「特に何もしていない」人は10.4%。大半の中高年が、なんらかの「ひざの健康管理」を実践しています。具体的には、「適度な運動」(52.7%)や「なるべく歩く」(51.9%)、「太り過ぎないように気をつける」(32.5%)などが多く、これらは「ひざだけではなく健康のために」実践しているということだと考えられます。

今後の健康における3大心配事は、「物忘れ」、「腰痛・関節痛」、「目が見えにくくなる」

中高年が今後の健康について心配なのは、「がん」や「高血圧症」などより「物忘れがひどくなる」(48.9%)や「腰痛、関節痛」(45.6%)、「目が見えにくくなる」(39.7%)が多く、この3つについては、どの年代にも共通する傾向でした。心配事が特にない人は4.5%と極めて少数です。日常生活に支障が出そうな健康上の心配事に関心が高いようです。

シニアライフでやりたいことは、「旅行」(81.9%)が最多

これからのシニアライフでやりたいこと、計画していることの第1位は「旅行」(81.9%)。次いで、「体力づくり」(30.7%)、「ボランティアや地域の活動」(27.1%)の順でした。旅行に行くなど、活動的な生活を楽しまたいシニアが多いことがうかがえます。

シニアライフを楽しむために不可欠なもの

男性は、健康、お金、配偶者

女性は、健康、お金、仲間・友人

男女ともに、まずは、「健康」。次に「お金」が不可欠なものとしてあげられていました。ただし、男性が3番目に「配偶者」(47.9%)をあげているのに反し、女性は「仲間・友人」(57.5%)。女性にとって「配偶者」は、なんと、7番目。男性にとっては、寂しい結果となりました。

千葉大学 名誉教授 鹿島労災病院 院長 守屋秀繁先生のコメント

今回の調査結果に対して、整形外科領域の膝関節疾患の第一人者であり大相撲横綱審議委員を務められている千葉大学 名誉教授 鹿島労災病院 院長 守屋秀繁先生は、「中高年のひざ痛の大半は変形性膝関節症という病気です。変形性膝関節症は、クッションの役割をしている関節軟骨の表面がざらざらして、次第にすり減っていく病気で、最初はときどき痛む程度です。現在の医療ではすり減った軟骨をもとに戻すことはできませんが、専門医による適切な治療により、痛みをとるだけでなく、病気の進行を抑えることが可能です。今回の調査で、ひざ痛を有する中高年の方々のうち8割近くが病院に行かず、ひざの痛みを我慢していたり、様々な自分なりの対処法ですませていることが分かりました。

この調査は比較的アクティブな中高年層を対象に実施しているので、もっと多くの方々がひざの痛みに悩んでいるのが現状だと思います。変形性膝関節症が進行すると、歩くことがつらくなり杖が必要になる人もいます。中高年の方々がより充実した生活を送るためにも、できるだけ早く専門医の診断と治療を受けることが重要です。」

この件に関するお問合せ先

本件に関するお問い合わせは下記にお願い申し上げます。

科研製薬株式会社 総務部広報グループ (TEL: 03-5977-5002)

生化学工業株式会社 総務部 IR・広報担当 (TEL: 03-5220-8950)

「ひざの健康に関するアンケート調査」 実施概要

. 調査目的

ひざの健康に関する中高年の意識と実態を把握し、「変形性膝関節症」についての理解促進と早期発見と早期治療の重要性を訴求する。

. 調査設計

調査対象：「おとなの文化祭 ゴールデンエイジ・フェスタ 2007」に参加した 40 歳以上の男女

調査方法： 対面調査

調査期間： 2007 年 9 月 28 日～9 月 29 日

. 有効回答数内訳：1,175 サンプル

【男性】

サンプル数	40代	50代	60代	70代以上
326人	21人	68人	135人	102人
100.0(%)	6.4%	20.9%	41.4%	31.3%

【女性】

サンプル数	40代	50代	60代	70代以上
849人	50人	236人	383人	180人
100.0(%)	5.9%	27.8%	45.1%	21.2%

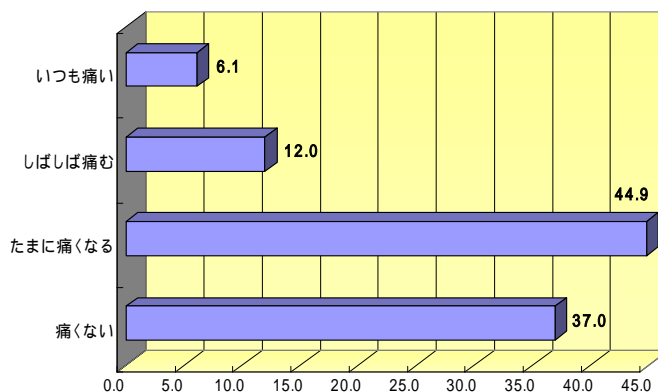
調査結果の詳細

1. ひざの痛みの有無

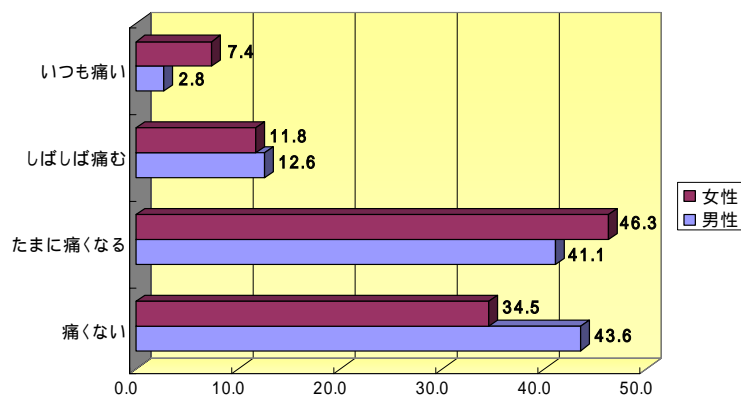
「たまに痛くなる」(44.9%)、「しばしば痛む」(12.0%)、「いつも痛い」(6.1%)と、膝の痛みを抱える人は63.0%。痛みを感じ始めた平均年齢は56.4歳であった。

Q膝が痛くなることはありますか？

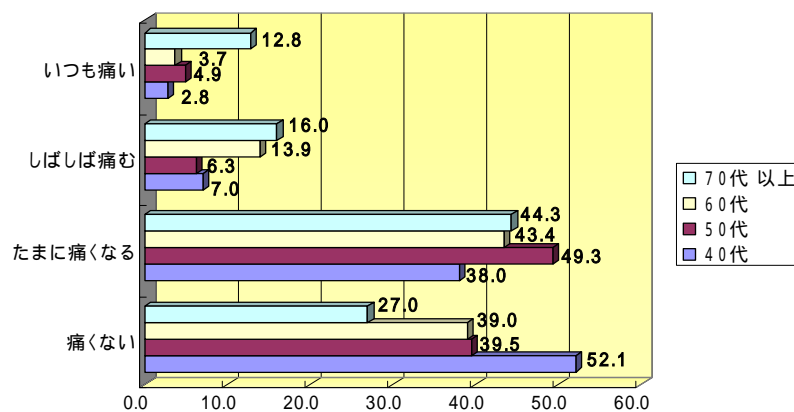
(n=1175)



男女別

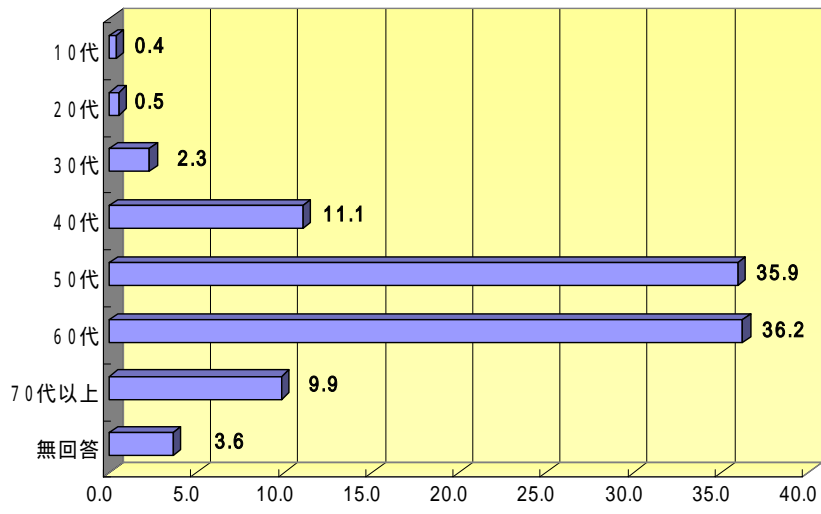


年代別



Qいつごろから痛みを感じ始めましたか？

(n=740)



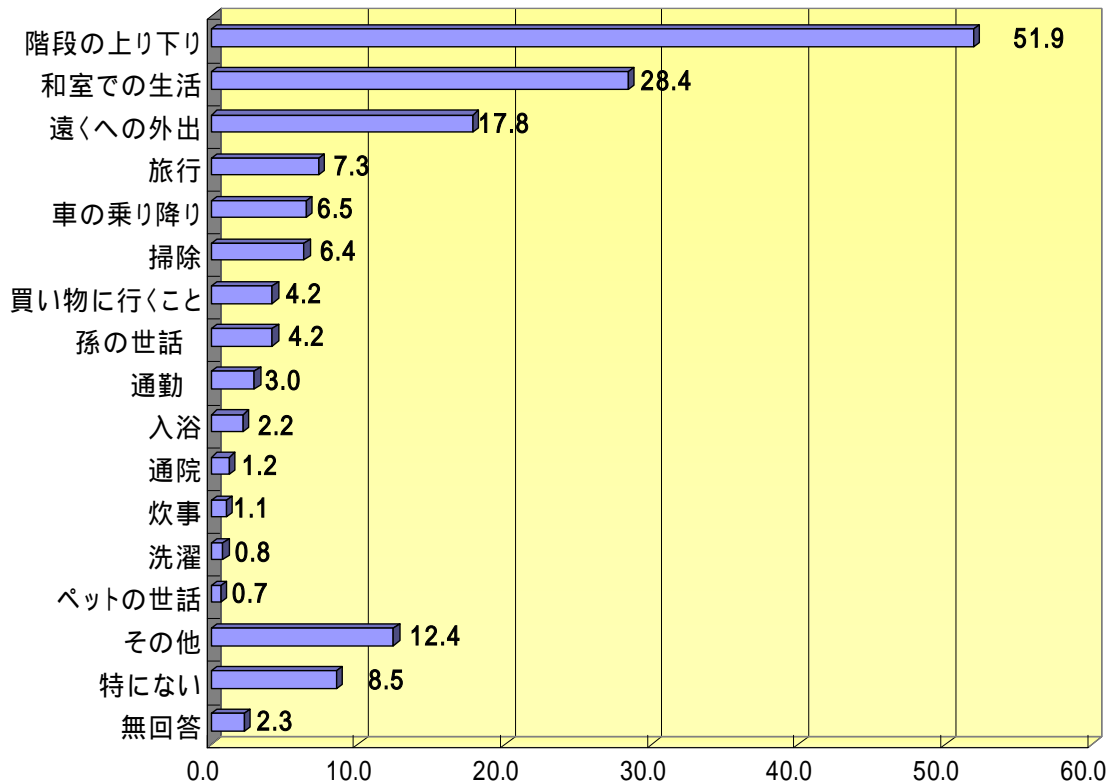
平均年齢 56.4 歳

2. ひざが痛くてつらい状況について

ひざが痛くてつらいのは、「階段の上り下り」(51.9%)が最も多く、次いで、「和室での生活」(28.4%)、「遠くへの外出」(17.8%)であった。「いつも痛い」人は、「車の乗り降り」や「掃除」「買い物に行くこと」ですら10数%の人がつらいと感じ、日常生活に支障をきたしている。

Q.膝が痛くてつらいことは何ですか？(MA)

(n=740)

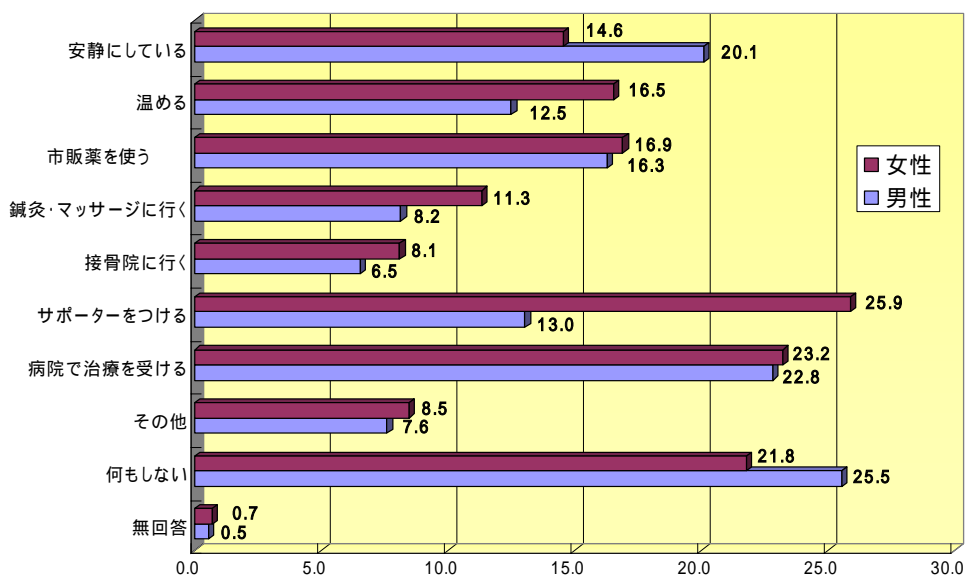


3.ひざが痛いときの対処法

病院で治療を受ける人は 23.1%のみ。一方で「何もしない」人も 22.7%とほぼ同数であった。男性は「何もしない」が 25.5%と最も多いのが目立つ。病院では、治療の中心は、「シップ薬や塗り薬」(69.6%)であった。痛みの頻度別に見てみると、「いつも痛い」人では 51.4%が、「しばしば痛む」人は 35.5%が病院で治療を受けるが、「たまに痛くなる」人では 15.9%しか受診しない。「いつも痛い」人ですら、病院に行っている人が半数しかいないのが現状である。

Q 膝が痛いときはどのように対処していますか？ (MA)

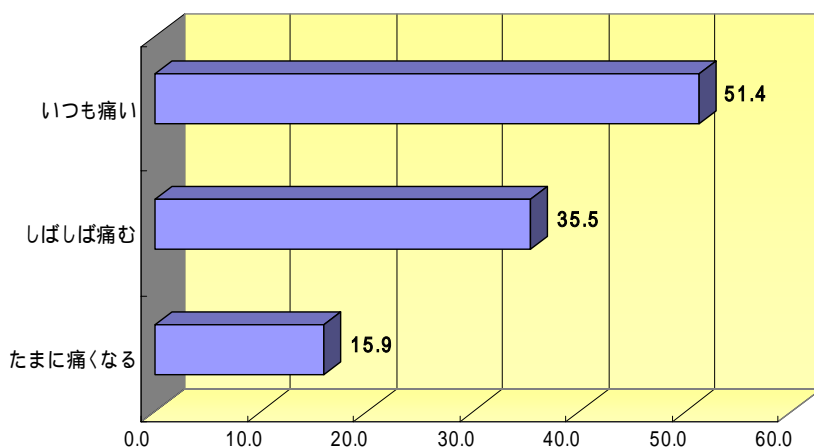
(n=740)



* 痛みの頻度別受診状況

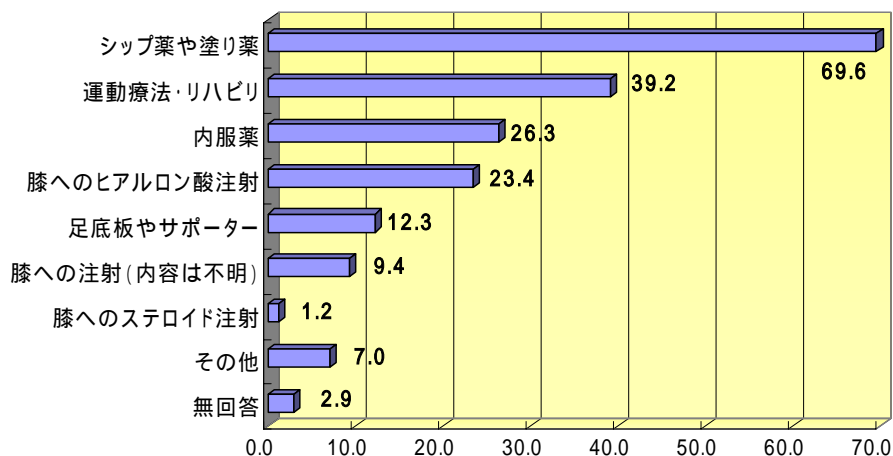
(n=740)

病院で治療を受ける



Q病院での膝の治療内容は？(MA)

(n=171)

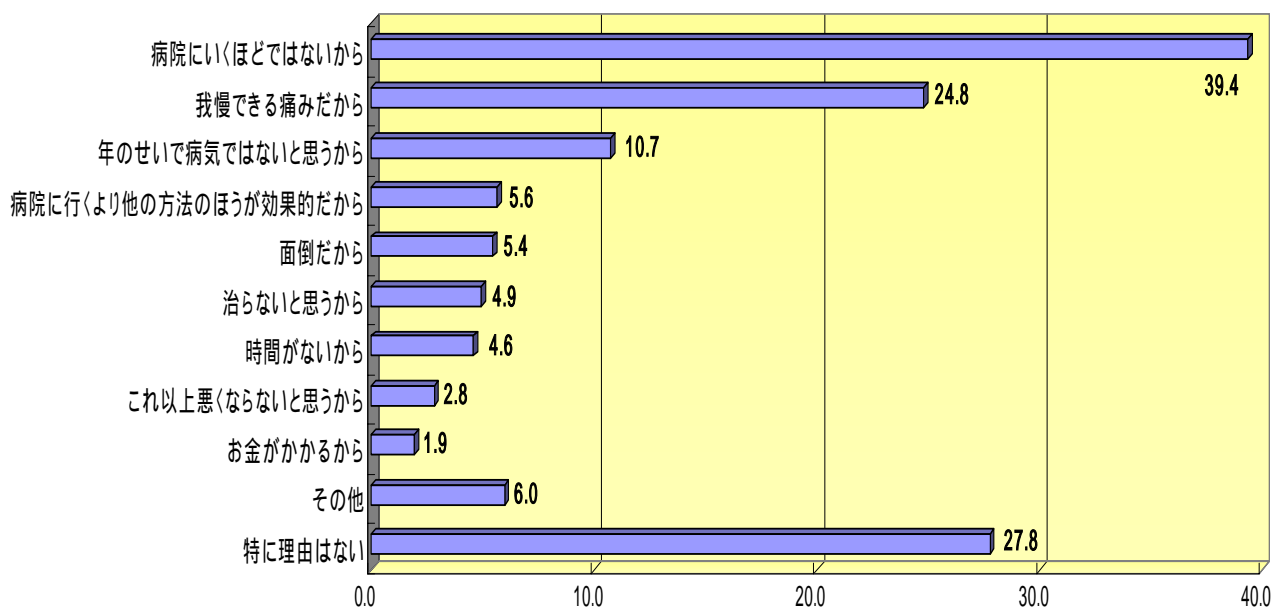


4. 受診しない理由

病院で治療を受けない理由としては、「病院に行くほどではないから」が 39.4%と最も多かった。次に、「特に理由はない」(27.8%)、「我慢できる痛みだから」(24.8%)の順。年代、症状に関係なく「年のせいで病気でない」「特に理由はない」が多く、病気としての認識が低い。

Q病院で治療を受けない理由は？(MA)

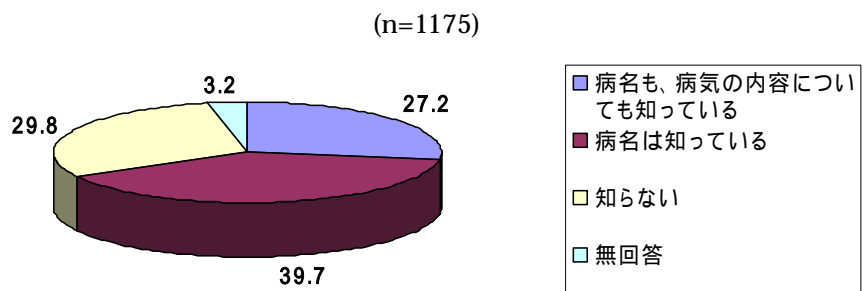
(n=569)



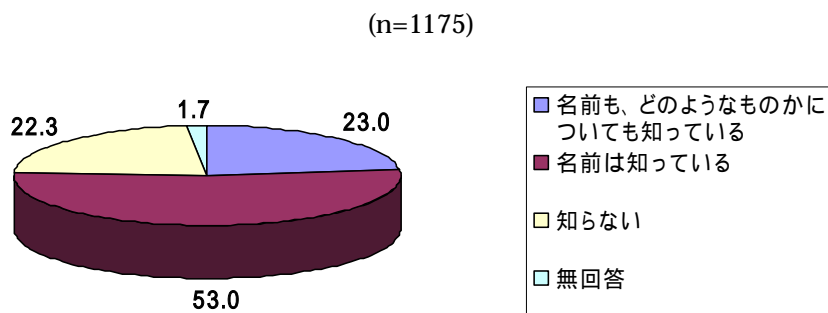
5. 変形性膝関節症およびヒアルロン酸の認知について

変形性膝関節症については「病名は知っている」(39.7%)が最も多く、病気の内容についてはさほど知られてない。また、ヒアルロン酸の認知度は76.0%であるが、ヒアルロン酸について「名前も、どのようなものかについても知っている」と答えた23.0%のうち、「ひざの痛みをとる注射薬」としての認知は32.6%にとどまった。

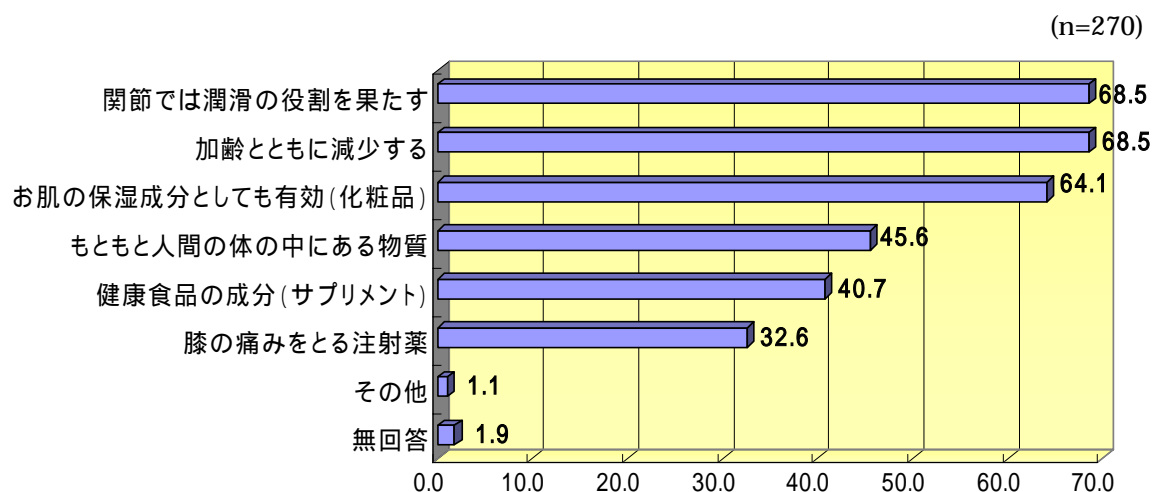
Q変形性膝関節症という病気を知っていますか？(SA)



Qヒアルロン酸について知っていますか？(SA)



Qヒアルロン酸について知っていることを教えてください。(MA)

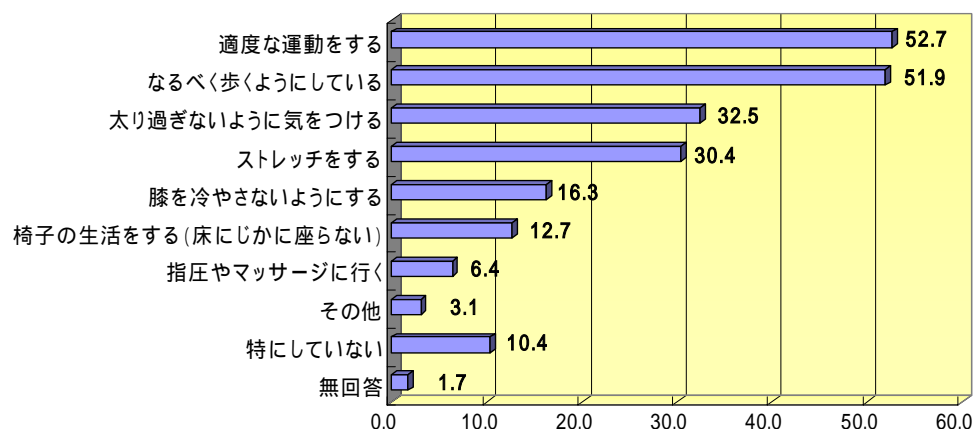


6. ひざの健康管理について

「ひざの健康管理」を特に何もしていない人は 10.4%。大半の人が、「適度な運動」(52.7%)や「なるべく歩く」(51.9%)、「太り過ぎないように気をつける」(32.5%)などを実践している。

Q膝の健康管理のために実践していることがありますか？(MA)

(n=1175)

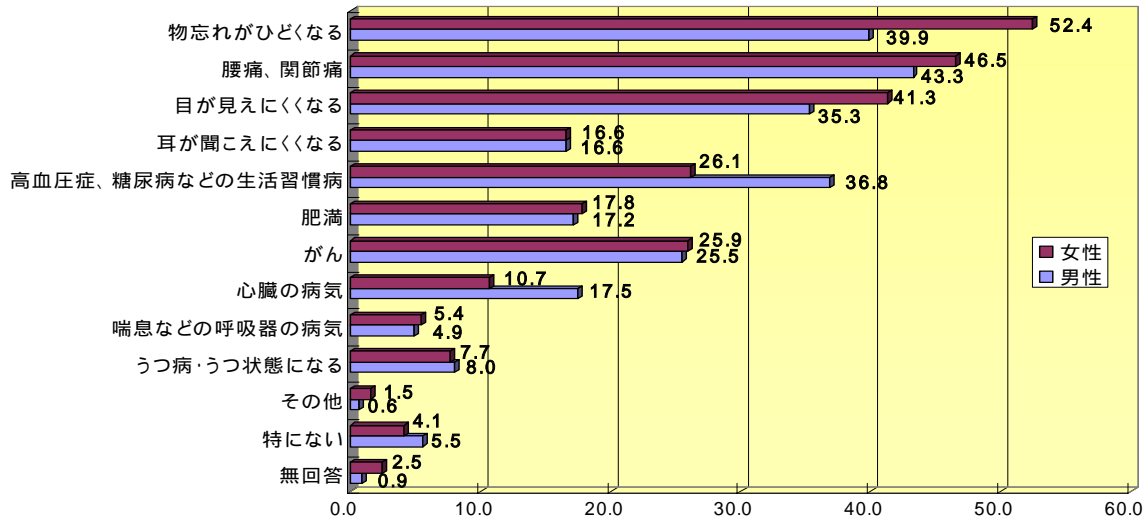


7. 今後の健康について

今後の健康については、「物忘れがひどくなること」(48.9%)や「腰痛、関節痛」(45.6%)、「目が見えにくくなる」(39.7%)といった、症状を自覚する事柄を心配する声が多かった。

Q今後の健康について、心配なことを3つお選び下さい。(3A)

(n=1175)

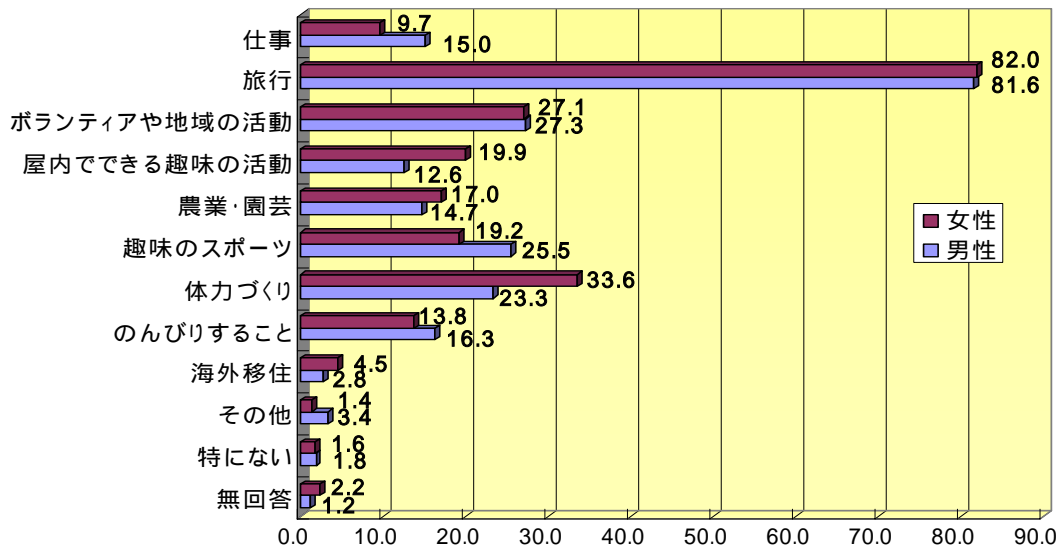


8. シニアライフについて

これからのシニアライフでやりたいことは、8割以上(81.9%)の人が「旅行」と答えた。また、シニアライフを楽しむために不可欠なものについては、男女ともに不可欠なのは「健康」「お金」の順であったが、3番目に男性が「配偶者」をあげているのに反し、女性は「仲間・友人」と答えており意見が別れた。

Q これからのシニアライフでやりたいこと、計画していることは？ (MA)

(n=1175)



Q シニアライフを楽しむために不可欠なのは？ (MA)

(n=1175)

